


創造性に富む研究で、未来に貢献する若手研究者を顕彰する
第12回2023年度 三島海雲学術賞の決定

公益財団法人 三島海雲記念財団(理事長 羽田 正、所在地 東京都渋谷区)は、厳正なる審査の結果、**第12回三島海雲学術賞の受賞者3名**を決定いたしましたので、お知らせいたします。


本賞は、自然科学及び人文科学分野において、傑出した研究業績を有する優れた**若手研究者(45歳未満)**を顕彰する賞です。

贈呈式は7月7日に東京會館(東京都千代田区)で開催し、受賞者には**賞状と副賞300万円**が贈られます。


【自然科学分野】(食の科学)

	はらだ なおき 原田 直樹 氏	43歳
	大阪公立大学大学院 農学研究科	准教授
	「アンドロゲンを基軸とした栄養代謝制御に関する研究」 男性ホルモンの低下がエネルギー代謝に影響し、2型糖尿病やメタボリックシンドロームを引き起こすメカニズムを明らかにしてきた。特に、男性ホルモン低下と高エネルギー食(高脂肪食)との相互作用が代謝疾患発症の鍵になることを見出した。	

【自然科学分野】(食の科学)

	みしま えいかん 三島 英換 氏	41歳
	ヘルムホルツセンター ミュンヘン	上級研究員
	「ビタミンKの新たな生理機能としてのフェルトーシス抑制作用の同定」 食品成分のビタミンKに脂質酸化依存性細胞死であるフェルトーシスを抑える作用があることを明らかにした。また、過去50年以上正体が不明であったビタミンK還元酵素がこれまでコエンザイムQ10還元酵素として知られていたFSP1であることを同定した。	

【人文科学分野】(アジア地域の歴史・人文科学)

	おだ なら 氏	37歳
	東京外国語大学 世界言語社会教育センター	講師
	『〈伝統医学〉が創られるとき：ベトナム医療政策史』 ベトナムでは、薬草や鍼を用いる伝統医学が制度として形作られ、国家が示す正統な独自性の象徴ともなっている。本研究はその過程を史料とインタビューをもとに描き、20世紀以降に伝統医学を制度としてつくり上げていく動的な歴史を示したものである。	

(所属、年齢は2023年4月1日現在)

「カルピス」生みの親 三島海雲



1878年(明治11年)大阪府いまの箕面市の寺に生まれた三島海雲は西本願寺文学寮そして仏教大学に学び、24歳の時、青雲の志を抱いて中国大陸に渡ったのち、やがて仕事で訪れた内モンゴルの地で、遊牧民の活力源と言われる**酸乳(発酵乳)**に出会いました。

1915年(大正4年)に帰国後、自らの内モンゴルでの健康体験をもとに、乳酸菌を活用した食品の事業化に取り組み、試行錯誤を繰り返したのち1919年(大正8年)7月7日七夕の日に、**日本初の乳酸菌飲料「カルピス」**の発売に漕ぎつけます。「カル」はカルシウム、「ピス」はおいしさを表すサンスクリット語から自身が命名。水玉のデザインは天の川、天体の縮図を形どったものです。

「カルピス」を日本の代表する飲み物に育て、長く経営の第一線にあった三島海雲でしたが、幾多の試練を乗り越えることができたのは、「私欲を忘れ公益に資する」「国利民福」に代表される独自の世界観と信念だったとも言えます。1962年(昭和37年)84歳のときに、「私が今日あるのは、先輩、友人、知己、さらには国民大衆の方々の惜しみないご声援によるところのものであると思った。したがって私の得られた財物は、ひとり三島海雲の私するものはない。あげて社会にお返しすべきものである。そして、お返しする方法として、財団を設立することが望ましい。」と考え、全私財を投じ三島海雲記念財団を設立いたしました。

＜本件に関するお問合せ先＞

公益財団法人 三島海雲記念財団

唐木田 陽一、青山光夫

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-6-10 ジラッフアビル

Tel:03(5422)9898

URL:<https://www.mishima-kaiun.or.jp>